

# 第41号

NPO法人建築Gメンの会  
〒206-0025  
東京都多摩市永山4-2-4-108  
発行責任者:理事長大川照夫  
TEL 042-311-4110  
FAX 042-311-4125  
E-Mail jimukyoku@kenchiku-gmen.or.jp  
HomePage URL  
<http://www.kenchiku-gmen.or.jp/>



- 06年度定例総会報告・・・1
- 阪神大震災から10年を振り返って・・・2
- 新任建築Gメンの抱負・・・3
- 事務局からのお知らせ・・・4

## 2006年度定例総会報告

文責 理事 松下 峻夫

第六回目となる定例社員総会が、06年5月27日(土)午後一時より神奈川県横浜市の横浜駅西口前に建つ、「ヨコハマプラザホテル」羽衣の間にて開催されました。

久しぶりに交通便利の首都圏での開催となり、社員総数81名中、全国から38名(過去最多数)の社員が集まりました。

委任状による出席者数24名を合わせて合計62名の出席により議決権を有する社員数の2分の1以上の出席が確認され、中山事務局長が本日の社員総会は定款所定数を満たして有効に成立したことを告げ、大川理事長が開会宣言した後、事務局より推薦した下堀克己社員が満場一致をもって議長に選任されました。

はじめに、大川理事長からの挨拶で、前年度は「構造計算偽装」発覚から端を発した数々の前代未聞の事件が起こり、安全性よりも利益を優先するという資本制社会における過度の競争原理が生んだ必然結

果であること、そして建築行政のあり方にも多大な問題が有ることを指摘され、ここに来て本会の活動の様式も大きく変わることが求められることを述べられ、引き続き下堀議長の進行により議案審議に入りました。

第一号議案(05年度活動報告)の総括を大川理事長から報告があり、各部会の担当者からのそれぞれの活動報告が行われました。

今年度は悪質リフォーム問題や耐震強度偽装問題で、テレビ局・新聞社・各雑誌社等のマスコミ取材依頼が殺到し、これに全面的に協力活動した建築Gメンスタッフの活躍が特筆すべき点でした。

第二号議案(05年度事業報告)では、相談会・広報活動・講演活動・研修活動等の報告及び事務局より電話相談業務・調査依頼件数の報告が行われた後、第五回建築Gメン認証試験の実施内容と、新しい「建築Gメン」5名が紹介されました。

第三号議案の「05年度決算報告」に入り活発な質疑応答が行われ、つづいて第四号議案の「05年度監査報告」審議の後、それぞれ賛成多数で

承認されました。

休憩後は第五号議案(06年度一般活動方針)、第六号議案(06年度事業計画)、第七号議案(06年度予算)の審議入り、それぞれの部会担当者から新年度に向けて、より一層充実した活動展開を目指すことを報告されました。

各活動方針に対して、社員から熱心な質問や要望事項及び提案が出され真剣に議論が交わされました。

NPOに対して世の中が期待しているもの何か、社会的役割を踏まえた活動をどの様に行うべきか、大型プロジェクトのこなし方、ホームページ掲載内容、会員加入の促進につながる活動等についての意見交換が行われ、課題事項はそれぞれ理事会及び担当部会で鋭意検討することで第五号から第七号議案まで可決承認されました。

最後に第八号議案(役員選考)の審議に入り、推薦された役員19名が満場一致で承認されました。本年度役員、各部会担当者につきましては、次号にてお知らせいたします。

連載特集

阪神大震災から10年を振り返って

この連載特集は、04年11月に行われたGメンの会セミナー(於、国民生活センター)においての講師狩野芳一先生のご講演内容をお届けします。

連載第9回目

『日本の耐震構造の発展史』

〜耐震神話の崩壊〜

講演 明治大学名誉教授 狩野芳一

この地震の地面の加速度は約200galでした。先ほどご説明したように、佐野先生のおっしゃったように設計して、建物が本当に剛であれば300galの地動に耐えるはずだったんです。それが200galで今のような破壊が起こった。当然300galではどうにもならないということですね。これこそ我々にとっての耐震神話の崩壊だったわけです。

今、我々のやっている耐震設計では、建物の弾性によって建物が地面よりも大きく揺れて、大きな力がかかるということを見無視して、無視してというよりは、そうならないように設計してきたはずだった。だけれどもそれができてない。だから何倍もの大きな力がかかってつぶれちゃった。これでは大変だというのが

1968年の地震での我々の認識です。

そこで、建物を何とかしなきゃいけない。つまり、ああいふ建物の柔らかい揺れ、弾性による揺れを考えると、建物を横にしても壊れないぐらいの強さを与えておかなければいけないことになる、強さだけならだけれども、なかなかそれだけの強さはいくらもつくれない。だったら、それだけ強くしなくてもつぶれないようにするためにはどうすればいいんだということ、先ほどの棚橋先生の考え方で、大きな変形に対しても粘り強く壊れずについていってくれるような建物をつくっておけば弱くても大丈夫だ。もちろん、先ほどスライドに出しましたように、オリブビュー病院の1階であっても被害が出ています。被害は出ているけれどもつぶさずに済む。我々にとっては、思っていたより3倍以上もの地震に対してつぶさないようにす

るということは、まずそれしか考えつかなかった。まずそれをするのが大事だったわけです。

そこで、1971年に建築学会では、ああいふ強さの限界に達したらがさつと壊れてしまうような種類の破壊は何としてでも防止しましょう、柱の剪断破壊は防止しましょうというところで、剪断破壊を防ぐような基準に改めました。それが形になってあらわれたのが帯筋の間隔を狭くするということです。ですから、よくいろいろな新聞に、帯筋間隔が30cmはだめで10cmならいいなんて出ていますよね。10cmならいつでもいいわけじゃないんです。そうじゃなくて、1971年のビルディングコードあるいは学会の基準の変更で、粘り強くするようにやったものは必然的に帯筋の間隔が10cm以下になるようになってる。それができているのは1971年から

後の建物で、できてないのが前の建物で、その昔の建物だったらまさに神話の崩壊どおり壊れざるを得ないんだけど、1971年を過ぎたものはとりあえずの対応ができたというのが、71年という年限の意

味であるわけです。もちろん、そんな程度で済ませておいたのではないけませんから、本格的に耐震規定を強化するための研究が行われました。

ついですが、1968年十勝沖地震の被害率はこの様なものでした。八戸市内のRC建物、大破以上が6%から9%くらい、中破がこんなものですから、合わせて10%ちょっとのものが中破以上だったということですね。

そのときに、学会と建築業界の研究所と法律をつくる立場の建設省の建築研究所と役所の法律をつくる専門家と全部集まりまして、日本で初めて総合プロジェクトというのができました。業界もたくさんのお金を出しまして共同研究をしたわけです。どうやれば建物に粘りを与えられるか、実際に存在する建物がどれだけの粘りを持っているかをどうやれば評価できるか、それから、粘りを与えるようにすれば本当に倒れずに済むか、地震のときの建物の応答が実際にどういふふうになるか、そういう研究が多量に行われたわけです。

そういう中で、1つおもしろいデータを「ごらんに入れます。これは東北大学の志賀先生の研究の成果ですが、横軸は重さの何倍の地震力に耐える強さを持っているかということとをあらわします。縦軸はその強さを持つ建物がどのぐらいの個数あるかという量だと思ってください。これはどういう建物について調査したかといえますと、十勝沖の直後、その当時、東北地方に存在したほとんど全部の鉄筋コンクリート建物の強さを、非常に略算的にはありますけれども評価した結果です。設計は、さっき0.1という数字が出ましたが、実はその後、基準法が改正になっていきますので、さっきの0.1はことと同じなんです。建物の0.2倍の強度を持つように設計する、これが設計用地震力です。これにもつように設計した建物が、これは余りエンジニアの自慢になることじゃないかもしれないんですけども、実際には、建物の重さと同じだけの水平力を受けても壊れないというのがこんなにある。それよりも強いというのがこんなにある。それよりも弱いものは半数以下だ。技術にはいろいろ

るな安全率の入る余地がありませんから、棒ほど願って針ほどかなうではなくて、逆に針ほど願って棒ほどかなうというのが実情なんです。この実情を無視して法律を決めますと、こういうものもだめだということになるわけですよ。こういうものは実際に耐えるんですから、この力で設計してもこういうふうになるものはいいんですから、それをだめだという必要はありません。我々がだめだと言いたいのは、ここまでの力がかかるとすれば、このものは壊れる可能性がある、これを何とかしなくちゃいけない、それが法律の改正のねらうべきポイントになるわけです。

次号に続く

### 新任建築Gメンの抱負

今年行われた第5回建築Gメン認証試験において、新たに5名の建築Gメンが誕生しました。今号より新任Gメンの抱負を紹介します。



社員 久保田 敦

この度「建築Gメン」としての認証をいただきました久保田敦と申します。私は静岡市で設計事務所を主宰しており、地域性もあり木造住宅の耐震診断、補強設計、その工事監理業務の割合が多くなっています。ちょうど1年前に入会したきっかけとなったのは、耐震診断を行う度に目にしてきた欠陥住宅の存在、悪徳業者によるリフォームがあまりにも多かつたことです。居住者は「まさかこんなことになっていくとは・・・」と驚き、今まで全くその状況を知ることなく生活して来たことに身も震えたはず。地域特有の耐震診断で調査に入つたからいいものの、そうでなければ、欠陥住宅と判明するのは大地震の後でしょうか、火災の後でしょうか・・・恐ろしいことです。世の中にこれだけ欠陥住宅が多いと、自動車のように一棟まるごと工場生産できないものかと考えてしまいます。どこか巨大な工場を住宅を組立て、現場へは完成品を巨大な輸送機で上空から据え置く・・・残念ですがそう考えてし

まいます。

建築Gメンとして欠陥住宅に悩み、苦しむ人を救うことは当然の任務と考えていますが、本音を言えばそろそろ施主としての無策の責任も感じてほしいと思います。任せつきり、信頼しきりはいい結果を生まない、施工前、施工中の検査、監理を充実させることを呼びかけ、引渡し後、居住後の欠陥住宅の争いは不利益ばかりだということをお伝え、是非理解して頂きたいと考えます。

業界に衝撃的な事件が続く中、私は建築士であると同時にGメンとして誇りを持ち、信頼を得、末永く活動するための心構えとして「公正」「慎重」「研究」を掲げたいと思います。公正な立場と姿勢を保ち、論理性のある慎重な発言と行動に気を配り、常に研究を怠らないよう、建築Gメンとして心を新たに活動していきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

事務局からのお知らせ

2006年度第4～6月期の

電話相談業務等実績

○ 月別相談件数	4月期	40件
	5月期	71件
	6月期	62件
	(計)	173件
○ 相談内容の内訳		
● 調査問合せ	66件	(42%)
● 瑕疵問題	53件	(34%)
● 契約問題	13件	(8%)
● リフォーム一般	10件	(6%)
● 業者と紛争	9件	(6%)
● 近隣問題	9件	(6%)
● マンション問題	3件	(3%)
● リフォーム訪販	2件	(2%)
● その他	18件	(12%)
	(有効数)	183
○ 調査(見積り)依頼件数		75件
○ 主な内容		
● 瑕疵総合調査		19件
● 売買物件の引渡し前の検査		17件
● 工事中の第三者検査		10件
● リフォーム関連調査		6件
● 雨漏り原因調査		4件
● 水漏れの原因調査		3件

○ 相談窓口の情報源

● 耐震診断	3件
● その他	9件
○ インターネット	62件
● 新聞・雑誌	10件
● 行政窓口	8件
● 書籍	6件
● 口コミ	5件
● テレビ	2件
● その他	4件
	(有効数97)

件数は事務局で集計可能なもののみ掲載

06年度第1回研修会のご案内

7月23日(日)午後1時30分～4時45分まで、国民生活センター大会議室にて開催いたします。内容は次のとおりです。建築Gメン認証試験受験者は参加必須となります。

第1限「建築Gメン業務の事例」  
講師 大川照夫(当会理事長)

第2限「最近の欠陥工事の判例」  
講師 田中峯子(当会副理事長)

参加費は5千円(会員は4千円)、お問合せは当会事務局まで。

業務完了後アンケートから

事務局では、調査業務完了後に依頼者へアンケートのご協力を頂いております。ご回答いただいた中からのご紹介です。

【Q1 今回の調査等に関して】

長い間、欠陥住宅ではないだろうかと不安でしたが、会のお世話で安心致しました。もっと早く知って利用していればと思います。その後のアドバイスもして頂きました。ありがとうございました。

【Q2 当団体の活動に対して】

消費者が会の活動を身近に知る方法(チラシ)があると多くの方が利用されるかと思えます。

(千葉県 M様・06年6月)

編集後記

建築Gメンの会の新年度がはじまりました。さらに活動内容の充実を図ってきたいと思えます。(Tu)

書籍の紹介

[監修]当会常任理事・渉外部会長 田岡照良



あなたの家は大丈夫? マンション再チェックハンドブック

(株)あおば出版 / 定価 700円  
耐震偽装マンションを再チェック 重要チェックポイントは必ずりココ 購入時のパンフレット、契約書を見直そう マンションのクオリティーを再確認! マンション危険度 Yes・No チェック 問題発見時のさまざまな対処方法

携帯に便利なポケットサイズ

[監修]当会理事長 大川照夫 / 事務局長 中山良夫



うちは大丈夫なの!? 自分でできるマンション診断

英知出版(株) / 定価 950円  
あなたのマンション命に関わる危険度をチェック! ストレスのない暮らしのために知っておきたいマンション知識 自分の家が欠陥マンションだったら

お詫びと訂正

この度本書に誤りがありました。編集、構成担当者の手違いです。出版元のHPより修正ページのPDF配布を行っております。当会のHPからもダウンロードできます。